

まなければならぬのでしょうか？現時点では院まで進む人より、学部卒の人が多く訳ですが、そういう人は一体総科で何を学んで社会へ出て行けば良いのでしょうか？

T：総科で4年間学ぶことの意義は、ある問題をいかに解決するか、その方法を身につけることにあるんじゃないでしょうか。例えば、会社に入っている地域のオキシダントを測定せよ、と言われたらどうしますか？その時、ただ測定装置のスイッチを入れれば良い、というのじゃだめなんです。つまり根本的にどうやってオキシダントをなくすのか、という所まで考えられる人にならなければだめな訳です。そういう人材を育成するところに総科の意義があるものと私は思っています。ただ、今までに総科の様な学部はどこにもなかったから、実社会に出てどれだけ役に立つのかは、まだ分かりません。従って、我々としてもどこまでやれば良いのか、4年間で漠然とでも型を作りたいけれども、具体的に示すことは出来ません。しかし、総科はそういった研究をするには良い学部です。学生自身が、いかに意欲を持つかによって、どれ程にまでも出来ます。だから、この問題に関しては、学生がいかに意欲を持つか、ということが大きく左右するんじゃないですか。

環境科学の特徴

S₃：ところで、環境科学の特徴はどういう所にあるんでしょうか？

T：それは難しい問題ですね。我々も今、どの様な特徴を持つのか、模索している所でしてね。つまり、環境科学というものは一律に決められないものなのです。例えば、アメリカの例ですが、ある州では環境科学を公害問題中心に考えていますし、また別の州では原発による放射線の影響中心に考えています。我々は我々独特の環境科学を創りあげていかなければならないのです。

環境科学を学ぶ姿勢

S₃：それでは、僕達は環境科学に対してどの様な姿勢で取り組めばいいのでしょうか？

T：まず第一に目的意識を持つことです。目的意識を持った上で、各パートごとの勉強する必要があります。そういった各パートの問題に対応できる先生がおられるので、学生はそういった先生の所へ足しげく行く必要がありますよ。つまり、我々教官の部屋をもっとのぞきなさい、ということです。何事も積極性を持たねば進歩はないですか

らね。

学生は環境科学をどう考えているのか。

S₂：ところで、現在のところ3、4年生の先輩方が、どのような問題に取り組み、また何をやるうとしていらっしゃるのか、お聞きしたいと思いますか？

S₃：僕は公害問題をやりたいと思っています。それも単に学問的な探究だけにとどまらず、実際の問題に対して今までやって来たことを応用できるようにしたいと思っています。

S₄：僕も環境問題をやるうと思っています。それも自然環境を主体にして、人文・社会分野を取り入れて考えて行きたいと考えています。

S₄：僕は今、卒論のテーマとして、黒瀬川の流域問題に取り組んでいます。これも僕の場合学問的にじゃなく、人の役に立つようにと思ってやっています。しかし、混沌としていて、自分でも何をやったら良いのか分からないというのが今の実状ですね。

M₁：私は広大な卒業生じゃないんですが、環境問題を意識して来た訳じゃないんです。私は地理学をやって来たんですが、地理学というのも、人間と環境との関連で考えていかなければいけないと思っています。そして、この環境科学の授業ではそういうものがたくさんあるから、私はここに来ました。今のところは、応用地理学的なことをやっています……、地すべりの問題とか……。

現在の環境科学コースに対する要望。

S₃：それじゃこのへんで、現在の環境科学コースに対して、何か要望があれば言って下さい。

S₄：僕は今4年生なのですが、僕が3年生の後期に思ったことが1つあるんです。それは、3年生の後期に環境科学実験Ⅱというのがあったのですが、これは各群に分かれているんです。それで2つの群にまたがった領域をやるうと思っている者は2つ以上の実験を取りたかったのですが、時間割りの上でそれが出来なかったのです。ですから、なるべく多くの実験をとれる様に配慮して欲しいと思います。

T：確かに環境科学をやる人にとって実験は非常に大切ですから、自分の好むものを取れる様に解決する必要がありますね。しかし、皆さんも実験は絶対サボるべきではありませんよ。

S₃：僕は今3年生なんですが、3年生になって実験をやって初めて、各先生のやっておられることが分かった訳です。それで、やはり自分の進路を決